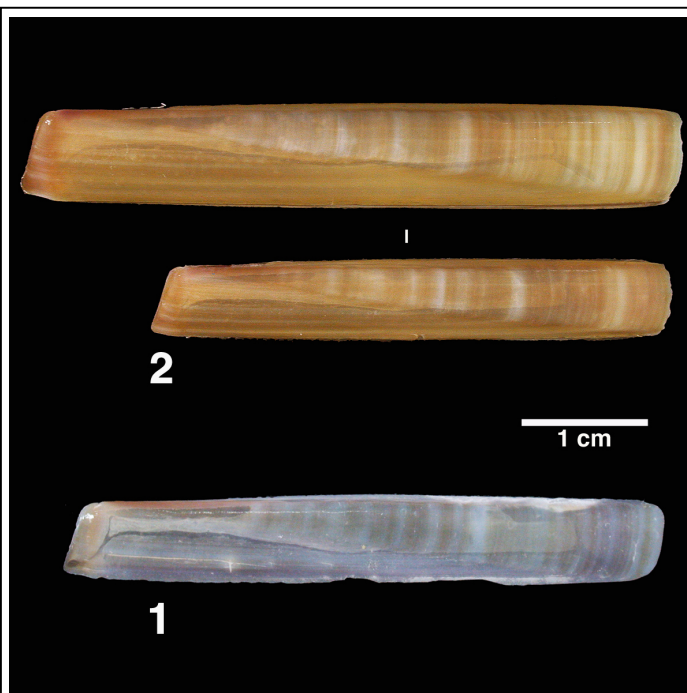


ダンダラマテガイ *Solen kurodai* Habe

【選定理由】

本種は清浄な干潟や潮下帯の細砂底に生息する。本種は新種記載時に三河湾産の標本が使用された (Habe, 1964) が、それ以来県内において生息に関する記録はない。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少し、潮下帯の環境も著しく悪化している。1999 年からの 3 回 (30 地点以上)、知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部の海域をドレッジにより調査した結果、本種は死殻さえ採集されていない (木村, 2000)。近年では、2016 年に渥美半島沖で操業した底引き船の漁業残渣より 1 個体半片死殻 (図 1) が採集されたのみである。その他の調査では死殻も確認されていない。和田・他 (1996) では、危険とランクされている。引き続き絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



1: 渥美半島伊良湖沖(トロール漁), 2016 年 8 月 9 日,  
2: 神奈川県逗子市, 2003 年 7 月 25 日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 50 mm、殻は前後に著しく延長した長方形で、膨らみは弱い。殻はやや薄く、両端は裁断状となる。殻の後部には後端と平行な赤色の条線がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

近年生息が確認できない。2016 年に古い死殻がかるうじて採集されたが、本種の現在の生息を証明できるような試料ではない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。房総半島以南から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。現在死殻さえほとんど採集されず、危機的生息状況である。絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

生息水深帯がやや深く、モニタリングが困難な事もあり、国のレッドデータブックには掲載されていないが、今後絶滅危惧種とすることも考慮するのが望ましい。

【引用文献】

Habe, T., 1964. Razar Shells in Japan and its Adjacent Areas. Bulletin of National Science Museum 7 (1): 7-16.  
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20. 名古屋貝類談話会.  
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)